

令和3年度 自己評価表

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

中長期目標	「多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」 ①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。 ②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。 ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。 ④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。	今年度の 重点目標	新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策を十分行いながら、教育活動全体をとおして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。 (1) 自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進 (2) 協同の学びで自他を高める教育の推進 (3) 学びを創造する力を高める教育の推進
-------	---	--------------	---

年 度 当 初				具体項目 達成度参考基準 学校評価アンケート等評価基準 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%以上 E 50%未満	評 価 結 果		
評価項目	現 状	目 標	目標達成のための方策（赤字：重点又は新たな取組）		経過・達成状況	評価	改善方策
(1) 自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進	○平均取得資格数 H29 1.34件→1.71件→1.60件→R2 1.52件 ○就職内定率 98.4% ○県版 HACCP 導入確認検査（R2年2月）、JGAP 認証（R2年7月）維持承認、スーパー農林水産業士3名認定 ○本校は自分の適性や進路希望を生かした進路指導と答えた生徒割合 H29 74%→78.1%→79.3%→R2 82.5% ○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた割合 生徒 H29 91.9%→90.4%→92%→R2 90.6% 保護者 H29 63.5%→59.3%→67%→R2 67.3% ○掃除が行き届き、すがすがしい環境 生徒 H29 64.2→62.8%→62.8%→R2 68% 教員 H29 50.0→45.8%→52.7%→R2 50.9% ○学校からの文書をよく持ち帰っていると答えた保護者割合 H29 60.7%→67.6%→62%→R2 64.1% ○HP 積極的に情報発信 H29 76.6%→74.7%→73.5%→R2 75.1% ○新型コロナウイルス感染症対策として多くの資格試験が延期・変更、施設実習や社会人講師による学習は県内講師による講義やリモート講演に替えるなど工夫して実施 ○2年生インターンシップ（11月）を中止し、代替として鳥取市経済・雇用戦略課事業の企業見学会を10月に実施、1年生上級学校企業見学（10月）は予定通り実施 ○生徒からすすんでの挨拶が不十分 ○感染症関連の緊急連絡においてもホームページを迅速に更新し、マチコミも有効に活用	・基礎学力の充実や専門領域の基礎基本を身につけ、資格検定への積極的な挑戦を促す。 ・インターシップや企業・上級学校見学等を通して、ふるさとで働き、学ぶ意識を高める。同時に勤労観・職業観を育成し自らのキャリアを設計する基礎を育てる。 ・生徒に仲間とともに学ぶ喜びを感じると同時に「学ぶ責任」があることの意識を高める。 ・高校生として、「見られる自分」を意識しながら、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開く意欲と素直さを身につけさせる。また、自身の命を守る意識を醸成し、先の危険を読み取る行動が取れる力を養う。 ・教職員が方向を揃え保護者や地域と連携し、明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。	○授業の充実を基本とし、資格取得への丁寧な指導を引き続き行う。 ○2・3年次課題研究や JGAP・HACCP・5S の学習を通して専門学科での学習の充実を図る。 ○進路ノート・キャリアサポートなどで、進路実現に向けて先を見通した支援に取り組む。 ○新たに「卒業生に学ぶ会」や卒業生による講演（創立 20 周年記念事業）を実施し進路指導につなげる。 ○1年次から適性検査を導入し、自己理解及び職業理解を深める。 ○日常より頭髮服装、礼儀、言葉遣いについて自覚を促す指導を科指導や保護者と連携し、全職員で取り組む。学校と保護者・地域が目標を一致させ協力関係のもと粘り強く取り組む。 ○校内に持ち込んだゴミは各自が持ち帰るなど、すがすがしい環境づくりと、消毒作業をワークセンターに協力いただきながら継続する。 ○学校文書の確実な持ち帰りを基本とし、教職員・保護者の連携を推進する。 ○ホームページの迅速な更新やマチコミの有効活用など、引き続き積極的な広報（新型コロナウイルス感染関連情報等）をすすめる。 ○令和4年度一人一台端末に向けて、配布文書等の電子化をはじめ、オンライン情報機器の対応など、組織的対応の準備をする。	○生徒一人当たりの取得資格数 A 1.7 件以上 B 1.5 件以上 C 1.2 件以上 D 1.0 件以上 E 1.0 件未満 ○就職内定率 ○本校は自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合 ○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒・保護者の割合 ○掃除が行き届き、すがすがしい環境と答えた生徒・教員の割合 ○学校からの文書をよく持ち帰っていると答えた保護者割合 ○ホームページ等を活用して積極的に情報発信していると答えた保護者の割合 ○タブレット型端末の活用状況調査結果			
(2) 協同の学びで自他を高める教育の推進	○地域社会と連携して学校外の教育力を積極的に取込むと答えた教職員の割合 H29 83%→79.6%→90.9%→R2 80.3% ○湖陵高校への理解（湖陵フェスタアンケート） H28 83%→70%→92%→R1 85%→R2 は湖陵フェスタ開催中止 ○特別支援学校と9月に iPad 遠隔交流を実施、園芸交流・小学校とのプログラミング交流を12月に実施 ○人権や命を大切にする教育が行われていると答えた生徒の割合 H29 75.4%→73.1%→79%→R2 79.9% ○LGBT に関するリモート講演会を9月に実施し、理解しやすかったと好評 ○学校は生徒の心身の悩みにかかわる相談について適切に対処と答えた保護者の割合 H29 79.8%→79.1%→80.5%→R2 80.6	・学びの成果を地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す。 ・小中学生や県民に積極的に学校を開放し、共に学ぶ経験を重ねることで生徒の学びを深めるとともに本校への理解を深めていただく機会とする。 ・地域活動、ボランティア活動等を通じ「ふるさと鳥取」を愛する心を育てる。 ・障がいのある方や異世代間交流を通し、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む。 ・特別な支援が必要な生徒に配慮しつつ個を伸ばす教育を行う。	○専門教育の意義を実感して学びを深めるため、本校教育資源の提供による各種交流、地域社会・産業界と連携、湖陵フェスタでの教育成果発信に取り組む。 ○各種の交流を通し、共生の心や自他を尊重する気持ちを育む。 ○クラスの実情に即した人権教育 LHR に生徒・職員がともに取り組み、人権侵害や差別を許さない集団づくりを行う。SNS など新たな課題を含め各種校外研修会に参加し、知識や理解を深める。 ○QU アンケート結果などを踏まえ、各立場が連携し、適切な対応をする。 ○新たに作成した湖陵版「特別支援教育の手引き」を活用し、組織的に指導に取り組む。 ○ホームページと新たに開設した「鳥取湖陵チャンネル」(YouTube)で、学科紹介・専門教育、部活動の取組などをタイムリーに掲載し、本校の魅力発信に努める。	○地域社会と連携して学校外の教育力を積極的に取り込んでいると答えた教職員の割合 ○湖陵フェスタ来場者アンケートで湖陵高校についてよく理解できたと答えた割合 ○人権や命を大切にする心を育てる教育が行われていると答えた生徒の割合 ○学校は生徒の心身の悩みにかかわる相談について適切に対処と答えた保護者の割合 ○「鳥取湖陵チャンネル」の視聴状況			

（3） 学びを創造する力を高める教育の推進	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫と答えた生徒の割合 H29 67.8%→69.6%→73.2%→R2 80.7% ○授業改善に向けて日々の取組を行うと答えた教員の割合 H29 79.7%→71.2%→81.8%→R2 82.2% ○公開授業の実施 41 授業（実施率 70.2%） ○家庭学習はほぼ毎日 H29 25.8%→24.6%→25.9%→R2 31.3% ○基礎力診断テストの結果が前年度より向上した生徒の割合 1 年比較データ無 2 年 48% 3 年 37.1% ○iPad で授業に関心-主体的に取り組む生徒 H29 56.2%→67.7%→69.7%→R2 69.2%（R2 情報科学科 94%） ○共用 iPad 使用頻度週 30 時間中 H29 25→27.7→29.2→R2 30 時間 ○「Classi」（基本サービス）と G-Suite を導入し双方向の通信を全校で確保、年度末までに端末（Chromebook または iPad）を全教員へ準備 ○授業研究をウェブ視聴できるアクティブラーナーや授業支援アプリ MetaMoJi など導入	・実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する。 ・専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。 ・ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。 ・BYOD の成果と課題を検証し「一人一台タブレット」に向け準備・発信する。 ・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く。	○各自 1 回以上の公開授業・授業研究会を継続実施する。 ○専門教科と普通教科の授業連携（農業と生物、家庭と現代社会、工業と物理）をさらに深め、学習意欲の向上を目指す。 ○「まな数」教材を見直し、学び直しの在り方を検討し、基礎学力強化を図る。 ○GIGA スクール構想予算で特別教室などの Wi-Fi 環境を改善し、全ての教員に準備した端末（Chromebook または iPad）の利便性を更に高める ○iPad 授業研究会を公開したり、県外の先進的な取組の視察を継続する。 ○効果的にアプリを活用する授業実践を進め、主体的で深い学びの一助とする。 ○BYOD の取組を拡大することができないか、総合的に検討する。	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合 ○授業改善に向けて日々の取組を行うと答えた教員の割合 ○基礎力診断テストの結果が入学時より向上する生徒の割合 ○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合 ○iPad を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 ○共用 iPad 使用頻度 昨年度以上		
取組（4） 業務改善の	○時間外業務時間数（教職員月平均） H29 22.2 時間→18.0→14.1→R2 11.7 時間	○時間外業務時間月平均を昨年度以下とする。	○部顧問人数を見直し「鳥取湖陵高等学校部活動に係る方針」を着実に実行する。 ○勤務時間外の留守番電話、盆期間等の対外業務停止日を設置。 ○毎日の教職員連絡を端末に配信するなど、端末活用を日常化し校務の効率化を図る。 ○必要に応じて、ウェブ会議・在宅勤務等を実施する。	○左記具体的方策を着実に実行		

JGAP（Japan Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）・HACCP（Hazard Analysis Critical and Control Point：食品の衛生工程管理）・BYOD（Bring Your Own Device）

評価基準

A:十分達成[90%]

B:概ね達成[70%程度]

C:変化の兆し[60%程度]

D:まだ不十分[40%程度]

E:目標・方策の見直し[30%以下]